図書だより

問遊学館よも～よ　☎ 582-5388

今月のおすすめ　秋の夜長にアンソロジー



児童書

◆『もりもりの出版社』講談社
まはら三桃、工藤純子、廣嶋玲子、菅野雪虫、濱野京子：著

本が生まれる場所には、きっと物語の気配が満ちています。出版社という少し特別な舞台をめぐりながら、本の向こう側にある人の思いや仕事の面白さにふれられる一冊です。歴史ある建物や編集部をたどるうちに、不思議な出来事と出会っていく展開も魅力です。ページをめくるたびに、本がもっと好きになる作品です。



一般書

◆『あの日のチョコレート
～スキ―トな５つの欠片～』白泉社
江國香織、小川糸、角田光代、千早茜、凪良ゆう：著

甘さの中に、記憶や気持ちがそっと溶けていくような一冊です。チョコレートをめぐる５つの物語を収めたアンソロジーで、それぞれの作家が描く余韻の違いも楽しめます。ひとくちの甘さから広がる懐かしさや切なさが、静かな秋の夜にやさしく寄り添います。ゆっくり読みたい大人の読書時間にぴったりです。

マルベリーこおり

問事務局　☎ 582-3129

月山紅葉トレッキング

月山紅葉トレッキングが 10 月 4 日に行われ、14 人が参加しました。今回は姥沢コースでリフトを利用し、月山山頂と姥ヶ岳を歩いてきました。

当日はすっきり秋晴れとはいきませんでしたが、リフト上駅に上がると雲海が広がり、視界も良好で、参加者は赤・黄・緑に色づいた山肌や稜線、草紅葉の素晴らしい景色に何度も足を止めて眺めながら、贅沢な時間を過ごすことができました。



広　告

広　告

INVITING COMMUNITY ZONE FOR EVERYONE

生涯学習だより

キッズスクール・バスでお出かけ企画Ⅱ
～学んで・遊んで・いい気分！～

キッズスクールお出かけ企画Ⅱが８月18日に行われ、会員18人がホタピーバスで福島市西部方面へ出かけました。

最初のお出かけは、「キヤノン福島工場」で、工場見学とプリンター分解体験をし、プリンター用インクの生産ラインでは、オートメーション化されたロボットがすごい速さで製造していて、子どもたちもびっくり。製品輸出先を示す世界地図を見て、国内だけでなく海外とのつながりを感じていました。次は十六沼公園へ移動。大きなぴょんぴょんドームで顔が真っ赤になるくらい飛び跳ねたり、すべり台や遊具で遊んだりと、汗びっしょりになって動き回っていました。最後は飯坂町の旧堀切邸へ。遊び疲れた体を癒してくれる足湯で、のんびりと過ごしました。

今回は、学びと遊びと癒しがつまった夏休み最後の思い出お出かけとなりました。







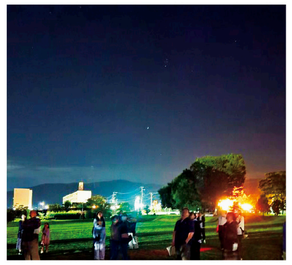
秋の夜空を見上げて
晴れ間が広がる空で、星に親しむ

こおりキッズスクール＆成人講座合同の「秋の星空観察会」が9月12日、イコーゼ！で行われ、51人が参加しました。

「星空コーディネーター」の杉中慎さんが講師を務め、屋内での映像鑑賞会と、屋外で行う星空観察会の２本立てで行いました。

前半は、映像を見ながら秋の星座や星の探し方を学びました。参加者は熱心に解説を聞き、星空への理解を深めました。

後半は屋外での観察。講座が始まる前は曇り空でしたが、外に出るタイミングで雲が切れ、晴れ間が広がりました。参加者は学んだ知識を活かし、肉眼で星を探しながら、秋の夜空の星空観察を楽しみました。



子ども防災 避難所体験
～「もしも」の時にそなえて～

オープンキッズスクール「子ども防災避難所体験（町生活環境課との合同事業）」が９月６日、半田公民館で行われ、児童16人と保護者５人が参加しました。

子どもたちは４つの班に分かれ、大越危機管理係長と自治協議会の内村さんを講師に迎え、避難所の質を高める「TKB48（トイレ・キッチン・ベッド、48時間以内に）」の確保のための「簡易テント」や「簡易ベッド」の設置、町の備品用具の確認などをしました。

昼食の時間には、保護者が準備した非常食用アルファ米とカレーをいただいたほか、洗い物を減らすために器にポリ袋（アイラップ）をかぶせて使う工夫も実践しました。

避難所体験を通して子どもたちは、「もしもの時」はみんなで協力して取り組むことの大切さを学ぶことができました。



芸術の心も“浮き彫り”に♪
銅板レリーフ作品を作る

成人講座「銅板レリーフ作品を作ってみよう」が9月2日、イコーゼ！で行われ、17人が銅板レリーフ作りに挑みました。

今回は手ぶら参加可能の講座で、気軽に新しい工芸に挑戦したい方々が集合。工房ゆあさの湯浅寿夫さんが講師を勤めました。会場には、講師が製作した銅板レリーフ作品が並び、その精巧さに驚きの声が上がっていました。参加者はそれぞれ好きな絵柄の紙を選び、それを銅板に写し、ペンで線をなぞって輪郭を描きました。

この後、「浮き彫り」にするために、薄い銅板を裏返し、ぐりぐりとペンやへらで表へ押し出し、絵柄を表現していきます。大きく押し出す部分は力強く豪快に、細かい部分は繊細に指先を動かし、参加者は自分の力で形にするものづくりの楽しさを体験しました。

